

平成28年6月16日

千葉県ジュニアバスケットボール連盟 マンツーマンディフェンス推進の取り組みについて

千葉県マンツーマンディレクター 鈴木 俊之

1 コミッショナーの配置について

○平成28年度千葉県バスケットボール選手権大会

- ・準々決勝から1試合につき2名のコミッショナーを配置する。
- ・旗を振ることや警告、罰則を与えることはせず、次大会に向けての試験的な運用とする。
- ・実際に使用するチェック表に基づいて試合を観戦し、問題点等を確認する。
- ・コミッショナーの運用方法や、大会全体を通してのマンツーマンディフェンスの印象等を各地区の専門委員長に伝達するとともに、ジュニア連盟のHPに掲載し周知する。

○平成28年度千葉県バスケットボール総合体育大会

- ・準々決勝から1試合につき2名のコミッショナーを配置する。
- ・マンツーマンコミッショナー運用規定に則って運用する（旗を使用する）。

○平成28年度関東中学校バスケットボール大会 千葉大会

- ・1回戦から1試合につき2名のコミッショナーを配置する。
- ・マンツーマンコミッショナー運用規定に則って運用する（旗を使用する）。
- ・コミッショナーは各都県から3名ずつ派遣していただき、各試合に割り当てて運用する。
※開催県である千葉県は補欠2名も選出する。

2 平成28年度千葉県バスケットボール選手権大会コミッショナー報告

(1) 大会全体を通してのマンツーマンディフェンスの印象

- ・スローインのときにオフボールマンへのダブルチームが見られた。
- ・プレスディフェンスの際、自分のマークマンへの意識がなく、ボールマンしか見ていない状況が多く見られた。
- ・プレスディフェンスの際、トラップ後のマッチアップがはっきりしない状況が見られた。
- ・ハーフコートディフェンスの際、ビッグマンがゴール下に止まり、マークマンが動いても動かない、またマークマンを見ていない状況が見られた。
- ・ハーフコートディフェンスの際、ヘルプポジションにいるディフェンスがミドルラインを超えてポジショニングをしている状況が見られた。
- ・マッチアップエリア内でのボールマンディフェンスが1.5m内に入っていない状況が見られた。

(2) コミッショナー運用上の課題

- ・基準規則と合っているか不安があり、旗を揚げるタイミングが難しい。
- ・3線ポジションの把握が難しい。特に、ボールの位置によって変わるので、3線ポジションの選手がどこまで、どの向きが違反になるのかを見極めるのが難しい。
⇒マンツーマンディフェンスを推進する背景には、選手の将来性やより高い技術へのレベルアップを目的としていたはずである。その考えを基に、基準規則と照らし合わせる中で、より良いマンツーマンディフェンスに導いていくことがコミッショナーの役割であり、使命であると考ええる。規則違反を取り締まることに意識を置くのではなく、良いマンツーマンへ導くことを考えると、コミッショナーとして試合に携わる中で、改善点が見られるときには旗を揚げ、コーチや選手とコミュニケーションを取りながらマンツーマンディフェンスを向上させてあげられることが本来の目的である。「マンツーマンディフェンスを向上させてあげられるようなチャンスがあるときには旗を揚げる」と考えると良い。
- ・ミドルラインを引いたほうがわかりやすい。
⇒平成28年度千葉県バスケットボール総合体育大会でミドルラインを引くべきかを大会本部、また競技部と検討する。
- ・TO席の後ろからだ試合が見づらく、違反を判断できるのか不安が残る。また、チーム関係者からアピールを受ける可能性がある。
⇒審判との連携を図ることを考えると、TO席後ろが望ましい。また、チーム関係者からのアピールについては、いずれにしても説明をすることが必要な場面もありえる。暴言であったり、行き過ぎた行動については、相応の対応をせざるを得ないことも十分に考えられる。

3 大会を終えて

初めてコミッショナーを配置し、多くの課題を確認することができた。県総合体育大会に向けて、考えなくてはいけないことは多い。特に、各チームのマンツーマンディフェンスについては、もう一度基準規則の周知を促し、練習に励んでもらう必要があると感じた。また、ディフェンス側だけではなく、オフェンス側にも課題がある。マンツーマンディフェンスが推進され、ディフェンスに注目が集まっているが、より動きのあるバスケットを目指すことや1対1の強化など、オフェンス側のレベルアップを考えなければ、相手チームのディフェンスを判定することは難しくなると感じた。コミッショナーの取り組みについては、「規則違反を取り締まる」という観点で取り組んでしまうことが多かったように感じる。マンツーマンディフェンスを推進する意図や背景を再度確認しなければならない。

最後に、マンツーマンコミッショナーという役割は、その責任も重たく、大変な役割であるが、本来、すべてのチームが基準規則どおりのマンツーマンディフェンスを行っていれば、配置をする必要は無いものである。千葉県としては、すべての選手、指導者がマンツーマンディフェンスを推進している意図を理解し、より早くコミッショナーを配置しなくても試合が成立するよう目指していきたい。そのためにも、指導者は高い倫理観を持ち、“チーム千葉県”として子どもたちの将来のための指導をしていただけることを願っている。